

## 「公共研究」投稿規定

- 1 投稿資格：特に設けない。
- 2 内容：原則として未発表のもので、かつオリジナリティがあるものであることとする。
- 3 使用言語：原則として使用言語は日本語もしくは英語とする。
- 4 原稿の種類：巻頭言、特集（シンポジウム、総説、論説など）、論説、研究ノート、書評、活動紹介、会議報告、資料等とする。
- 5 原稿の提出：基本的に電子ファイルで入稿する。提出の際、A4判の紙で出力したものを添えるほか、FDもしくはCDで本文、図表を別ファイルにして提出する。著者は必ずバックアップをとっておくこととする。なお、電子ファイルの内容・書式と出力されたものの内容・書式が不一致の場合は、出力されたものを優先する。
- 6 論説等の長さ：論説の場合、図表含め4万字（刷り上り42ページ程度）以内、研究ノートの場合2万字（刷り上り20ページ程度）以内を原則とし、これを超過する場合は、連載とする場合もある。書評は1万字程度とする。その他のカテゴリーについては、原則として4000字以内とする。
- 7 原稿の書き方：公共研究編集委員会の定めた執筆要領に従う。英語の場合は英文の校閲を行ったうえで、提出することとする。
- 8 原稿の採否：公共研究編集委員会で決定する。採用の可否にかかわらず、原則として原稿は返却しない。
- 9 採用方法：編集委員会が、論文テーマ・内容等を考慮して論説・研究ノート・書評1本につきそれに相応しい査読者（原則2名）に依頼する。そのうち1名が掲載不可と判断した場合や評価に懸隔が見られる場合、編集委員会の合議を経たうえで採否を決定する。
- 10 採用時の変更・訂正：編集委員会から「論説」「研究ノート」等カテゴリーの変更、誤記の訂正、その他修正を求めることができる。
- 11 著者校正：原稿の入稿以前に編集上の確認を行うほか、初校に限り著者校正を行う。ただし提出された原稿になかった字句、図表、写真などの大幅な修正は認めない。
- 12 原稿の返却：原則として返却しない。ただし、図表、写真等特に返却を希望するものについては、投稿時に申し出ることとする。
- 13 別刷：50部贈呈する。それ以上の希望は有料とする。
- 14 著作権：「公共研究」掲載の原稿に関する著作権は、千葉大学大学院社会文化科学研究科公共研究センターに属する。著者は論文の掲載にあたり、著作権に関する同意書（書式1）に署名・捺印し、提出する。
- 15 本規定の適用：以上の規定は2005年6月1日以降の投稿原稿に対して適用する。
- 16 問い合わせ先：千葉大学大学院社会科学研究科公共研究センター  
TEL/FAX043-290-2337  
e-mail : recpa@restaff.chiba-u.ac.jp

### 付則

- 1 本規定適用の疑義および補則・改定等については編集委員会で審議し、決定する。

## 「公共研究」執筆要領

1 表題：原稿内容の最も適切な要約であるようにする。欧文タイトル、執筆者名を付記する。

2 要旨：日本語の論説の場合、英語で 200～400words の英文 abstracts も提出する。

### 3 原稿

- ・文章は口語体、常用漢字、新かなづかいによる。
- ・日本語原稿の場合、外国語の使用は必要最小限にとどめる。アルファベットは半角文字を使用する。
- ・使用するソフトは MS-WORD もしくは MS-DOS テキスト形式とする。図表に関しては EXCEL ファイルも可とする。
- ・数式は 2 行分以上とり、文字・数字の大小を明瞭に区別する。数字は半角数字を使用する。
- ・生物の学名や記号のイタリック体はアンダーラインで指定する。
- ・文章の書き出しおよび改行は、必ず 1 字あけて書き始める。
- ・句点、読点およびカッコは 1 字分あける。
- ・原稿には必ずページ番号をふる。図表は別表とし、ページをふらない。
- ・原稿末尾に著者のかな書き氏名、所属機関名をカッコに入れて記入する。欧文の氏名、所属機関名等を付記する。

### 4 文献

#### 4-1 引用文献

・本文中に引用は例にならぬ、著者の姓（紛らわしい場合は名前も併用）、発表年を書く。

例：鈴木（1991）は・・・、渡辺（2003 a）によれば・・・とされる（田中・加藤、2004）。

・インターネットからの引用及び参考文献の場合、筆者が参照した年月日をアドレスの後に記入する。

例：

<http://www.redefiningprogress.org/publications/pdf/eeit.pdf>（2004 年 11 月 1 日）

#### 4-2 参考文献

・参考文献は著者のアルファベット順に並べる。同じ著者のものは年代順に並べる。同じ著者の同一年代のものは、引用順に a、b、c・・・を付して並べる。また、同一著者の複数の文献を記載するときは、2 つめ以降の文献の表示には、氏名の代わりに、————（4 倍ダッシュ）を用いる。2 行以上になる場合は、2 行目以降は一文字下げる。

##### ①書籍

著者名（出版年）『タイトル——サブタイトル』出版社名

例：広井良典（2003）『生命の政治学——福祉国家・エコロジー・生命倫理』岩波書店

##### ②雑誌論文

著者名（出版年）「論文のタイトル」『雑誌名』巻(号): 論文の初ページ-終ページ.

例：倉阪秀史（2001）「展望論文 環境に関する社会科学」『千葉大学経済研究』16(1): 129-140

##### ③編書論文など

著者名（出版年）「論文のタイトル」編者名編・著者名『本のタイトル』出版社名、論文の初ページ-終ページ

例：雨宮昭彦(2004)「グローバリゼーション、欧州統合とコーポラティズムの再建」  
廣田功・永岑三千輝編『ヨーロッパ統合の社会史』日本経済評論社、175-216

④外国語文献及び翻訳書・翻訳論文

著者名(発行年) タイトル(イタリック)：サブタイトル,出版元

(訳者名訳(翻訳の出版年)『訳書のタイトル』出版社名)

例：Etzioni, Amitai (2001) *Next: the road to the good society*, New York: Basic Books

(小林正弥監訳・公共哲学センター訳(2005)『ネクスト：善き社会への道』麗澤大学出版会)

著者名(発行年) 'タイトル' in 編者名(ed(s))・著者名 タイトル(イタリック)：サブタイトル,出版元

(訳者名訳(翻訳の出版年)「論文のタイトル」編訳者名編『訳書のタイトル』出版社名)

例：Vincent, Andrew (1998) 'Is Environmental Justice a Misnomer?' in D. Boucher and P. Kelley(eds.) *Social Justice: from Hume to Walzer*, Routledge

(栗栖聡訳(2002)「環境的正義は誤称なのか」飯島昇藏・佐藤正志訳者代表『社会正義論の系譜：ヒュームからウォルツァーまで』ナカニシヤ出版)

外国語雑誌はイタリック体、単行本はローマン体とする。雑誌の巻数はボード体、号はカッコに入れる。巻がなく号だけのものは、No.3 のように書く。雑誌では最初と最後のページを-でつなげて書く。

例：Wolin, Sheldon(1969) 'Max Weber: Legitimation, Method, and the Politics of Theory', *Political Theory*, 9(3): 401-424

(千葉眞・中村孝文・斎藤眞編訳(1988)『政治学批判』みすず書房、157-199)

⑤ 調査報告書

研究代表者名(刊行年)『研究課題名』〇〇年度科学研究費補助金研究成果報告書、研究機関名

例：小林正弥(2005)『日本における公共哲学の構築のための包括的研究—地球的公共哲学ネットワーク形成に向けて』2001-2004年度科学研究費補助金研究成果報告書、千葉大学

⑥政府刊行物など

編集機関名(出版年)『タイトル』

例：環境省(2004)『環境白書(平成16年版)』

⑦修士論文や学会報告原稿など

著者名(論文提出年)「論文のタイトル」〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇年度修士論文

⑧電子メディア情報

インターネット上のホームページの情報を文献として利用したときは、欧文の場合と邦文の場合それぞれについて、次のとおりとする。

著者名(公表年または最新の更新年)“当該情報のタイトル”(URL、アクセス年月日)

例：

Eissa, Nada, Richard Blundell and Laura Blow (2000) 'Employment, Environmental taxes, and Income taxes'

(<http://www.redefiningprogress.org/publications/pdf/eeit.pdf>, May 16, 2005)

藤田宙靖(2000)「国の変革と市町村の役割」

(<http://www.law.tohoku.ac.jp/~fujita/heisei-20000222.html>, 2004年10月1日)

CD-ROM、FD、視聴覚資料などを文献として利用した場合の記載は、書籍に準じるが、末尾にCD-ROMやFD、ビデオテープ、録音テープなどであることを明記する。例示すれば、次のとおりである。

日本公共政策学会(1998)『公共政策——日本公共政策学会年報』1(CD-ROM)

## 5 図表

- ・図表は各図、写真、表ごとに別紙とし、番号は図3、表2、写真5などと表す。
- ・図表は基本的に著者が作図するものとする。ただし引用等で編集委員会が作成する場合、必要に応じて実費を徴収する。
- ・国土地理院、水路部等が発行している地形図、海図等を用いる場合には、あらかじめ許可をとり、その旨注記する。

## 6 書評

- ・書評の見出しは次の例にならう。

(例)

アンソニー・ギデンズ著、佐和隆光訳：第三の道--効率と公正の新たな同盟、東京：日本経済新聞社、286pp.、1999年、ISBN4-532-14771-9

Daly, Herman E. and Joshua Farelly, (2004) *Ecological Economics: Principles and Applications.*, Washington D.C.: Island Press,440pp., ISBN 1-55963-312-3.